



にしやま尚利 県議会のご報告

●福祉公安委員会 副委員長
●子育て・健康・医療対策特別委員会 副委員長

早いもので昨年(2024年)の東日本大震災から2度目の夏一福島市の酷暑の中で、仮設住宅では、まだまだ数多くの方が避難生活をおられます。県外に避難中の方々も10万人を超えています。この先行きの見えない不安の中で不自由な暮らしに耐えておられる方々にあらためて心からお見舞い申し上げます。

今、福島県民が一番求めているものは何でしょうか。「安心」です。政治や行政、国や県から守られているという安心感を求めています。そして、小さな子どもを持つ親、とりわけ母親が、一步一步、確実な心身の安心を得ることが、福島復興への大きな第一歩となるはず。

昨年は、大震災と原発事故の直撃、その対応など、経験のない場面にたびたび直面し、迅速

で的確な判断ができないこともしばしばあり、ご迷惑をおかけしたことをあらためてお詫言申し上げます。しかし、この一年間で大変多くの経験を、データを蓄積し、何をなすべきかがはっきりしてきました。解決していない難題・課題も、もちろんたくさんありますが、出来ることを一つ一つ実行することで福島は必ず復興へ向かい、前進するものと私は確信しております。

昨年秋の県議選、「あなたにたのんだぞい！」と目に涙をいっぱいにして私の手をあたたかく握ってくれたおばあちゃんの期待は、県民の皆様の期待でもありと肝に銘じております。

あのおばあちゃんの涙を忘れず、真の安心をもたらす復興を実現するために一層努力してまいります。



▲県民医療対策特別委員会 (H24.5.18) 知事要望 (H24.7.4)



▲厚生省木倉医療食品局長と (H24.7.13)



〈にしやま活動レポート〉

3月30日／第65回JA福島県青年連盟大会総会に出席。若い農業後継者のリーダー達が、これからの福島農業の復興・発展を誓い、将来に向けた決意を披露した。心強く感じるとともに大震災の爪痕の深さも痛感。昨年の「米安心宣言」後の混乱(セシウムの高い米が検査の結果見つかった)を繰り返してはならないと強く思う。検査体制を強化し、風評被害の払拭を確実に実現していきたい。

4月4日／県議会自民党議員会と参議院自民党政審会復興委員会に出席。県内医療機関、特に浜通り地区の医師・看護師不足について議論。人手不足からベットはあるが入院患者を受け入れられない現実。比較的長期(半年~2年)での医師・看護師派遣制度を作ることを要望。また、老人施設の介護士不足も同様の制度創設を要望した。

4月10日／福島倫理法人会モーニングセミナーで、県政報告。今年度福島県当初予算とこれからの福島市を中心とした県北地方の将来像について説明。特に除染・原発・健康(甲状腺検査やホルボディカウンター検査など)・県立医科大学構想・県警本部独立庁舎・東北中央自動車道計画について報告。4月22日、水保地区県政報告会でも同様の報告を行った。皆さんと郷土の将来像を共有していきたい。

4月12日／福島県商工会青年部との政策懇談会に出席。大震災・原発事故の深刻な影響を受けた

各々の地区の説明を受け、賠償や県の制度の活用について説明。また、情報交換を密に行い、案件個別の対応にも協力したい。また新しい発想での提案も大いに期待している。

4月17日~19日／福祉公安委員会県内調査。県北・県中・相双地区の警察本部および署・児童福祉施設・介護施設・県立医科大学・心のケアセンター・南相馬市立病院などを調査。南相馬市立病院の医師が「救える命を救えない現実がある。」と苦悩する医療の厳しさをとくに訴える。医師や看護師などの確保と県北との連携が急務だ。

5月13日／第50回福島県障がい者総合体育大会出席。5月から私が後援会会長を務めさせていただくことになった、県立盲学校・聾学校福島分校も出場。選手宣誓を行い、素晴らしく大きな拍手をいただいた。参加選手を激励をして回り、あらためて県民の全てが安心して未来を拓くことができる郷土を作らなければならない、と思った。

5月15日~17日／福祉公安委員会県内調査。会津・いわき地区の病院・警察署・仮設敷地内介護施設・児童福祉施設・海上警備艇などを調査。特に仮設住宅敷地に作られた介護施設では、お年寄りたちの明るく落ち着いた表情が見られほっとする。何よりも安全安心と心の平穏が大切と痛感する。

5月25日／子育て・健康・医療対策特別委員会。6月県議会で知事に中間報告を行い、早急に

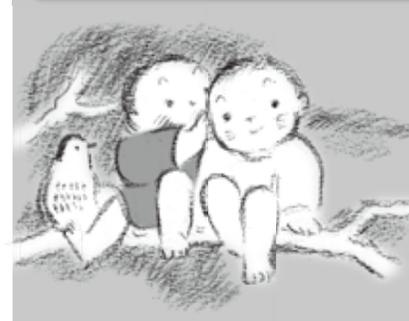
実行すべき施策の要望を確認。各委員から要望事項を聴取した。その結果、子どもの健康調査のスピードアップや食品検査体制の早期充実などが出た。

7月13日／福祉公安委員会として政府要望。甚野委員長と共に

にしやま 回覧板

皆様のくらしのお役に立ちますように

医大に最先端画像装置導入
ガンなど様々な疾患の早期発見・診断を行うため、医大病院に最先端画像装置2台が、この秋頃に導入されます。このうちの1台一陽電子放射断層撮影(PET)と磁気共鳴画像装置(MRI)が一体となった装置の導入は、国内初。PET・MRI一体型装置は、撮影画像が鮮明で、ガンのほか、心臓や脳、肝臓など様々な部位の疾患の検査に活用されます。



県営あづま球場のスコアボードフルカラーに

あづま球場のスコアボードが、来年春には、文字や絵などが全てフルカラーで自由に表せるLED方式に改修されます。また、スピードガン表示施設もできます。野球観戦がもっと楽しくなりますね。

厚生労働省、警察庁を訪問。厚生労働省では保険局長・雇用均等児童家庭局長・健康局長・食品安全部長・老健局長、また警察庁では人事課長・会計課長に直接要望を説明。皆さんは何度も福島県に入って実情を把握していた。有意義な話し合いだった。

県警本部独立庁舎基本計画決定

かねてから検討されていた県警本部独立庁舎の基本方針が決まりました。庁舎は、耐震性と警備面を重視し、相談窓口などを利用する県民にもわかりやすく便利な機能を備えます。また、大規模災害時には、国・県・県警・消防・自衛隊などが一体となって対応できる危機管理拠点を併設することも検討中。完成はH29年度。建設場所は、県庁東分庁舎か県庁駐車場の予定です。

子どもの屋内遊び場新設

放射能の影響への警戒から、外遊びができない子どもたちのために、4団体の支援で新しい屋内遊び場が4つできました。夏休み、思いっきり遊んでください。でも、宿題を涼しいうちにすませてからね。

福島オークラボウル内
福島市太平寺字過吹 11-1
オーエム興業株式会社

東邦銀行研修所の体育館内
福島市在庭坂字市道 12-1
株式会社東邦銀行

あづま総合体育館の軽運動室内(遊具拡充)
福島市佐原字神事場 1
財福島県都市公園・緑化協会

パセオ通り沿いのアドニードビル1階
福島市置賜町 7-5
NPO法人福島ライフエイド